

2022年8月26日(金) 第2886回例会 形式:対面 天候:晴れ
合唱:我等の生業

会長 青木 義美 幹事 室伏 学

事務所:神奈川県足柄下郡湯河原町宮上 566 湯河原温泉観光協会

TEL 0465(64)1234 FAX 0465(63)1716 例会場:ニューウェルシティ湯河原 例会日:毎週金曜日 12:30~13:30

会長挨拶

青木 義美

過日は情報集会、そして夜間例会と大勢の方に参加して頂き、ありがとうございました。新会員候補の情報も沢山出て、是非アフターフォローで入会者が増えればと期待しております。

さて今日は、佐藤祐一郎ガバナーの公式訪問です。随行の柴崎 AG には、過日 AG 公式訪問も頂き、ご多忙中神奈川県西端までありがとうございます。

ガバナーは津久井中央クラブ在籍中で、このクラブが会員数25名(内女性が3名)と、我々湯河原クラブとあまり変わらないメンバー構成なのに、ガバナーを輩出している実力に頭が下がる思いです。「クラブが小さいからガバナーなんてとても」とよく聞きますが、そんな理由が通らない事を実践されている事に感心させられております。

お仕事は相模湖 CC というゴルフ場を運営されており、お住まいは東京中野との事です。ガバナーが1957年生まれの64才、AG が確か私より3才若い69才という働き盛りのトップに囲まれ、ロータリーワークには最高の環境と自負しております。

今日は宜しくお願いします。

出席報告

会員	23 名	出席率	90.91 %
欠席	3 名	前回の修正出席率	81.82 %
(免除者)	1 名	前々回の修正出席率	72.73 %
ゲスト	0 名	事前メイクアップ	0 名
ビジター	2 名		

ビジター

RI 第2780地区ガバナー 佐藤祐一郎君(津久井中央)

RI 第2780地区第9G ガバナー補佐 柴崎正三君(小田原北)

幹事報告・連絡事項 なし

スマイル Box

ご夫人誕生日 深澤昌光君(加代子様・8/3)

入会記念日 佐藤友彦君(6年・H23.8.5)

佐藤祐一郎君(第2780地区ガバナー・津久井中央 RC)

皆様にお会いするのを楽しみにして居りました。日頃よりお世話になっております。本日のガバナー公式訪問どうぞ宜しくお願い致します。

柴崎正三君(第9グループガバナー補佐・小田原北 RC)

本日、佐藤ガバナーの随行として参りました。どうぞ宜しくお願い致します。

青木義美君・室伏学君・伊藤伸之君

本日はガバナー訪問でいろいろ御指導頂きます。宜しくお願い致します。

高杉尚男君・安江仁孝君

本日、60周年記念誌の発送準備を終え、記録に関する業務が完了いたしました。記念誌の発刊にあたり皆様の多大なご協力を賜りましたこと改めて御礼申し上げます。

望月博文君

8月2日、ベンツカップ日本決勝大会、北海道小樽カントリーに行ってきました。120名中、15位で特別賞をいただきました。やはり、ドイツとイタリアは遠かったです。日本が一番です。来年またチャレンジしたいと思います。



ガバナー・AG・会長・幹事
記念撮影



ガバナー・新年度会員
記念撮影



こんにちは、どうぞよろしく
お願いいたします。佐藤がバ
ナーの第一声は、ふっと肩の
力が抜けるような感触さえ
覚えるほどのものでしたが、
「RI 会長テーマ」「DEI」「地
区方針」と卓話が続くにつれ、
すべての会員はこのガバナー
の持つ情熱の虜となってい
きました。ガバナーと会員の
思いは、いつの間にかひと

つになっていました。本稿では佐藤ガバナーのご発言をベースに、卓話の様子をレポートしていきます。

RI 会長テーマ:IMAGINE ROTARY

「ジェニファー・ジョーンズ会長のプレゼンテーションにおいて、このようなフレーズがありました。『アメリカの詩人、マヤ・アンジェロウ氏の言葉に“人はあなたが言ったこと、行なったことは忘れるが、あなたに対してどう感じたかは決して忘れない”。だから私は皆さんの感情に訴えたい』。確かに私が会長のプレゼンテーションを初めて聴いたとき、投げかけられた言葉は漠然としており覚えきれませんでした。そのときの高揚感は今もはっきりと覚えています。時系列的な都合から、会長のプレゼンテーションは私が地区の指針を構想した後に触れることになりましたが、ビジョンの修正は不要でした。IMAGINE という言葉から、ネガティブなものまで想像することを求められていると考えてしまいますが、会長が目指すIMAGINE はあくまでポジティブなエネルギーに溢れているものでした」

「特に印象的であった項目を掘り下げますと、ジェニファー・ジョーンズ会長は『一番大切なのは“クラブ”である』ことを強く認識していらっしゃいます。それと同時に『クラブはひとりひとりの会員に配慮ややさしさを持ち、ひとりひとりに居場所、責務、まるで新しい車を買ったときに感じる明日への希望のような気持ちが常に湧き上がるような、感動を与えるような場所であるべき』と、クラブが見据えるべき方向を説明しています。私はこの点に関してまったく同じ思いです。数値目標はそれだけでは無意味で、その実現の過程でどのような未来があるか、提示できるか、想像できるかを意識することこそが大事なのです。ですので私達も、良い未来を想像しましょう」

DEI

「お伝えしたいのは、この言葉を単なる流行り言葉だと受け止めないでいただきたいということです。D(Diversity:多様性)、E(Equity:公平性)、I(Inclusion:インクルージョン、包摂性)というそれぞれの概念について、日本語への訳され方なども様々あり、私達はその本来の意味について冷静に認識する必要があります」

「私は DEI のひとつの形として『役割を与えること』があると考えています。私はこの世に役割を持っていない人はいない、と信じているからです。それは RI 会長も同じ思い(誰一人として取り残してはいけない)です」

地区方針

「私からも本年度ガバナーとして、2つの地区方針を打ち出しました。『取り戻そう』、『記憶に残る年にしよう』。繰り返しになりますが形だけの数値目標について、歴代ガバナーのように定めることはいたしません。しかしそれでも数字について語らせてもらいますと、一例としてロータリーのクラブと会員の状況です。この30年、地区内のクラブ数は多少の増減がありながらあまり変わらず推移してきました。しかし1クラブあたりの会員数はこの30年で平均20人程度減りました。これをクラブがどう捉えるかは、それぞれのクラブ次第です。各クラブからそれぞれのビジョンの達成のために考えた数字に関しては、そのまま認めるべきとも思っています」

「RI 日本理事が主宰する“ロータリー研究会”というものがあり、RI 会長をはじめ RI 財団管理委員長など、そうそうたる面々が揃います。その中の質問コーナーにて、とある国の前会長から会長に『ポリオに関する活動はいつ終わるのか!?!』と厳しい質問が飛んだときのエピソードをお話します。そのとき回答したのが当地区の元 RI 理事(小沢 PG)でした。氏は『愚問だ。この活動はロータリアンが始めたことであり、ロータリアンの誇りにかけて(根絶まで)続けるものだ!』と喝破し、場内は割れんばかりの拍手に包まれたとのこと。私はそこで久々に『誇り』という言葉を目にしたように思いますが、あるいは『矜持』という言葉でも表されるこのことを、私達は今こそ思い起こす必要があると考えています。ロータリーは地域に影響力を与えることができる人々の集まりです。そういった人々が取り組んできたこと、残されているレガシー、それぞれに誇りや矜持を持ってほしいのです。そしてそのための行動を起こすために、今年を『記憶に残る年』としてほしいのです」

(編集 8月会報担当:吉村行正/クラブ会報委員会)